

統計的手法を活用し、主体的に問題解決を図る社会科学習  
ー中学３年「現代社会の特色と私たち」の実践を通してー

名古屋市立B中学校

## 1 研究のねらい

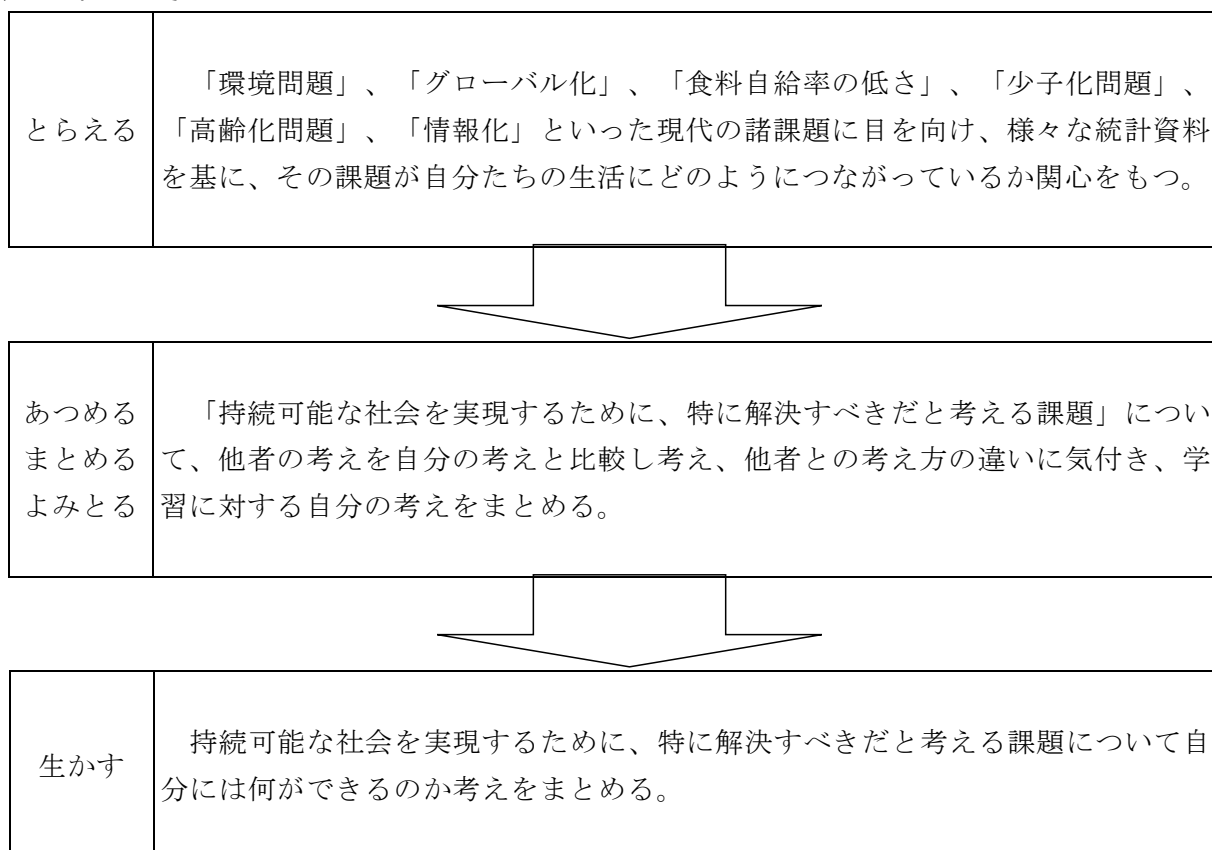
私は、社会科学習において、資料を活用して調べたことを基に自分の意見をもち、互いに深め合うことができる生徒を育てたい。資料を活用し理解することは、生徒たちが出会ったことのない社会的事象を身近に捉えやすくし、資料と自分たちの社会生活を関連付けて考えることにつながる。

学習指導要領では、「社会的事象の意味や意義などを考察し、（中略）社会との関わりを意識した課題を追究」する活動の充実を図るよう述べられている。また、令和４年度名古屋市小中学校指導方針では、「統計的な手法を学習や生活の中で活用することを通して、統計的な見方や考え方を用いて、問題の解決に当たる能力や態度を育成する」ことが示されており、これらの力を育成していくためにも、統計的手法を用いた学習を行うことは有効であると考えます。

そこで、第３学年の社会科の学習を通して、図やグラフを比較しやすいように提示したり、調べたことを整理し、自分の考えをまとめ深める活動を工夫したりして、持続可能な社会の実現に向けて、私たちの生活との関連について考えるとともに将来の社会参画に必要な資質・能力の基礎を育てたい。

## 2 研究の内容

### (1) 基本的な考え



## (2) 授業実践

### ① 単元名 3年 公民的分野「現代社会の特色と私たち」

### ② 本時の目標

#### ア 目標

現代社会はグローバル化や情報化による変化が著しく、予測困難なものとなっている。

予測できない変化に対して、様々な情報を判断しながら課題を解決し、主体的に社会を形成していく資質と能力が求められている。そこで他者との考え方の違いに気づき、自らの考えをもつ生徒を育成したい。その際、これまで社会科で重視されてきた課題解決的な学習過程に加えて、活動の中で自分の考えをもちことを大切にして、将来の社会参画の基礎も育てたい。

#### イ 統計教育上の指導目標

「とらえる」段階では、現代の諸課題に目を向け、その課題が自分たちの生活にどのようなつながっているか関心を持たせることができるようにする。また「あつめる」「まとめる」

「よみとる」段階では、様々な統計資料等を活用して、持続可能な社会の実現のためには多くの事象が関連していることを理解できるようにする。さらに「生かす」段階では、持続可能な社会の実現に向けて自分には何ができるのか、自分事として考えることができるようにする。

### ③ 指導の流れ

段階	学習活動
とらえる	① 持続可能な社会とは、どのような考え方に基いているのかを考え、どのような事象の解決が求められているのかについて予想する。 また、学習課題である「持続可能な社会の実現に向けて、優先して解決すべき項目は何か」について、ダイヤモンドランキングを作成し、予測する。
あつめる	② 「環境問題」、「グローバル化」、「食料自給率の低さ」、「少子化問題」、「高齢化問題」、「情報化」などの現代社会の特色を知り、課題について調べる。
まとめる	③ 学習課題「持続可能な社会の実現に向けて、優先して解決すべき項目は何か」について自分の考えをまとめ、ダイヤモンドランキングを作成する。
よみとる	④ 自分の考えを、小グループで紹介し合う。紹介し合った後に、再度、ダイヤモンドランキングを作成する。
生かす	⑤ これまでの学習を振り返り、学習課題「持続可能な社会の実現に向けて、優先して解決すべき項目は何か」について、自分の考えをまとめる。

### ④ 実践の様子

#### とらえる段階【第1時】

教科書P6～7の資料「T市の町の様子から現代社会をながめてみよう」から、現代社会の問題点には何があるのかについて考えさせた。すると、「いろんな問題がある」「どの問題も大切なことだと思う」など、持続可能な社会の実現のために必要な諸課題を自分事に置き換えて考える姿が見られた。また、学習課題である「持続可能な社会の実現に向けて、優先して解決すべき項目は何か」を提示し、今後ダイヤモンドランキングを作成するため、見通しをもって学習することを意識付けた。

### あつめる段階【第2時～第5時】

第2時では「グローバル化」について学習し、「食料自給率の低さ」の問題との関連性について、教科書の資料を基に調べた。あわせて「環境問題」には何が見られるのか、東日本大震災を例に考え、世界ではどのような環境問題が見られるのか確認した。

第3時では「少子高齢化」の問題を「少子化」「高齢化」と分けて考えさせ、その背景には何があるのかを教科書の資料を基に調べた。

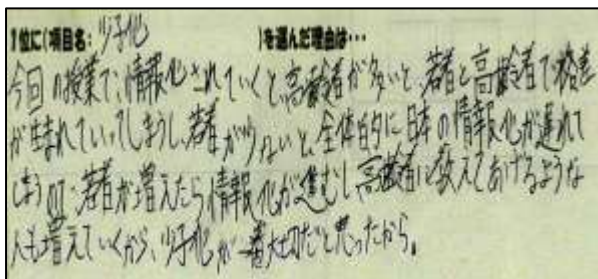
第4時には「情報化」について、教科書の資料を基に調べた。

また、毎時間の振り返りとして、その日学習した諸課題をダイヤモンドランキングに示し、毎時間増える諸課題に対して解決すべき順位で並び替えをさせた。生徒たちは「課題を解決するためには、まずこの問題を解決しなければならない」「どれも大切だから優先順位が決まらない」と諸課題の重要性や関連性に着目して学習している様子が見られた。

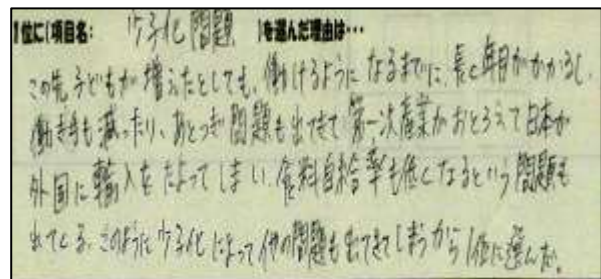
### まとめる段階【第6時】 よみとる段階【第7時】

第5時までに調べてまとめたことを整理し、「環境問題」、「グローバル化」、「食料自給率の低さ」、「少子化問題」、「高齢化問題」、「情報化」の六つの課題を一つのダイヤモンドランキングに示し、その理由を考えさせた。生徒A、Bは1位に「少子化」を選んだ生徒の記述である。

【資料1、2】どちらの生徒も、1位にその課題を選んだ理由や他の課題とのつながりを明確にし、記述している。同様に記述できた生徒は、全体の66%であった。第7時では、各グループでどのような意見が交わされたのかを発表した。【資料5 次ページP14】



【資料1 生徒Aの記述】

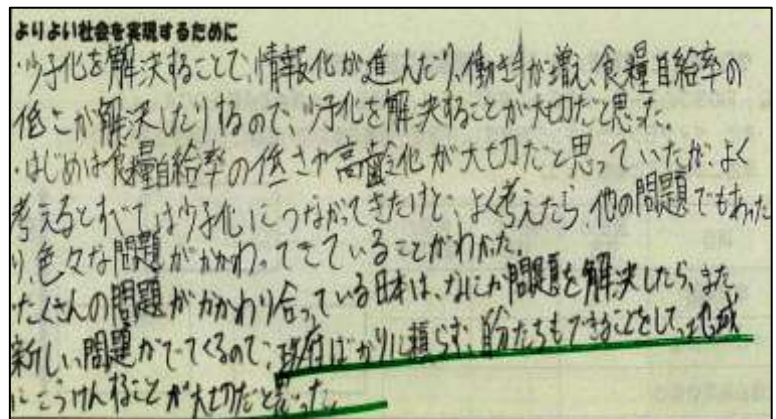


【資料2 生徒Bの記述】

### 生かす段階【第8時】

学習課題である「よりよい社会を実現するために、優先して解決すべき項目は何か」に対する最終的な自分自身の意見を記入する活動を行った。

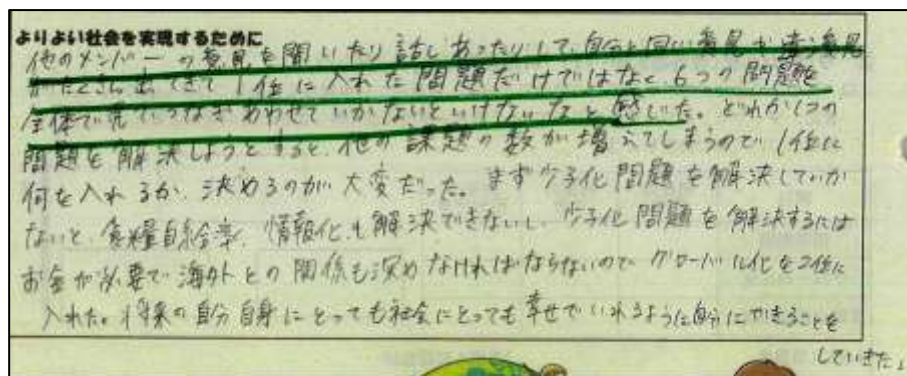
その結果、生徒Aは「少子化を解決することで、情報化が進んだり、働き手が増え、食料自給率の低さが解決したりするので、少子化を解決することが大切だと思った。」「はじめは食料自給率の低さや高齢化が大切だと思っていたが、よく考えると全ては少子化につながっている。他の問題でもあったりいろいろな問題がかかわって来たりしていることが分かった。」と記述していた。【資料3】



【資料3 生徒Aの記述 意見交換後】

生徒Bは「他のメンバーの意見を聞いたり話し合ったりして、自分と同じ意見や違う意見がたく

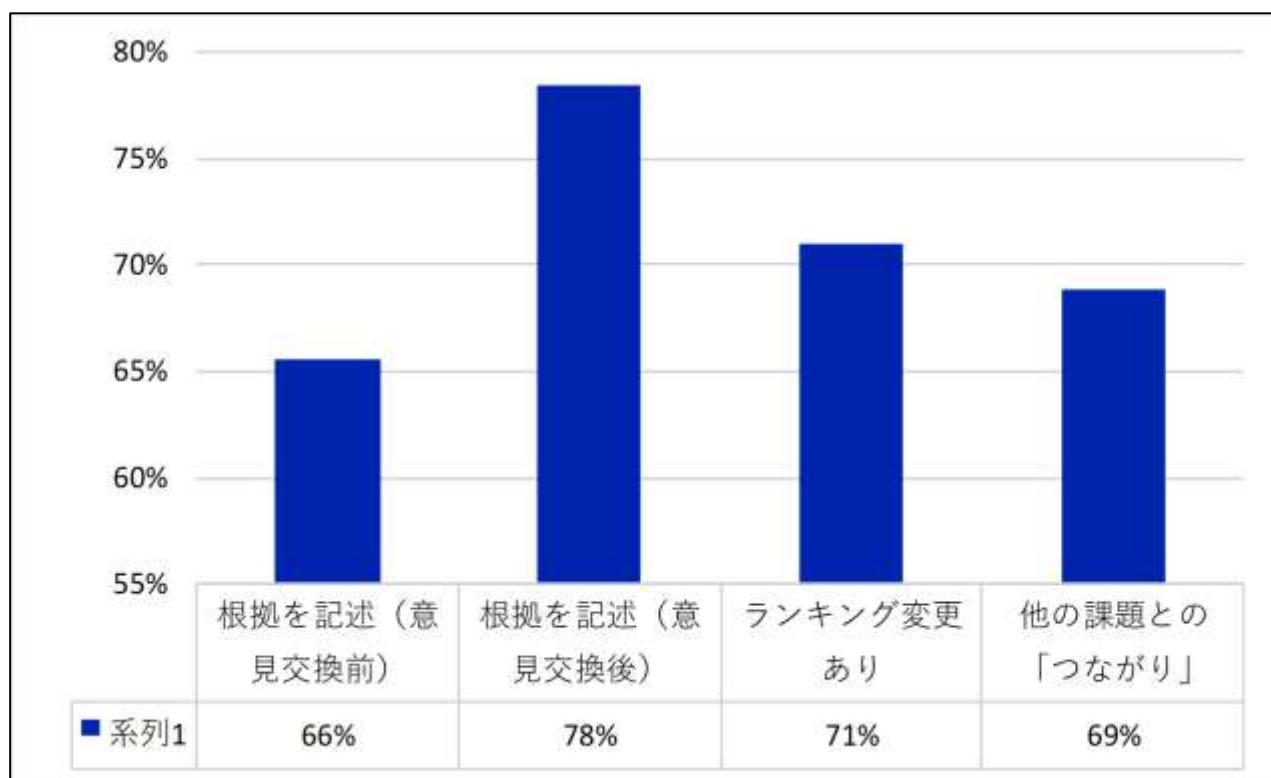
さん出てきて1位に入れた問題だけではなく、六つの問題を全体で見て、つなぎ合わせていかないとはいけないなと感じた。」と記述していた。【資料4】



### (3) 考察

#### 【資料4 生徒Bの記述 意見交換後】

意見交換する前の記述とその後の記述を比べたときに、より明確に根拠を記述することができた生徒は78%となり、ダイヤモンドランキングを変更した生徒は71%となった。さらに、記述の中に、他の課題とのつながりについての記述が見られた生徒は69%であった。上記の結果により、各資料を用いた意見交換によって他者の意見を取り入れることで、自分の意見をより深めることができた生徒が多く見られたことが分かった。【資料5】



#### 【資料5 生徒のワークシートの記述についての集計結果】

学習過程を三段階で構成したことで、一つ一つの課題についての知識の定着に結びついた。そのため、よりよい社会について深く考え、根拠を明確にして記述することにつながったと考える。

### 3 研究のまとめ

統計的手法を活用した社会科学習は、私たちの生活に関わる社会的事象や課題を考える上で有効であることが明らかになった。今後は、教科書の資料だけでなく、社会的事象をより多角的・多面的に捉えられるような資料を教師が用意し、生徒の考えをさらに深められるようにしたい。